

衛研第3 - 24号
平成28年 9月14日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
3. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
4. 結核の届出状況（月報）
5. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
6. 全国及び関東情報
7. Saitama Infectious Agents Surveillance Report
Topics（ヘルパンギーナ）
8. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493 - 59 - 9325
FAX 0493 - 59 - 9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 28 年 第 36 週（平成 28 年 9 月 5 日～平成 28 年 9 月 11 日）

今週の注目される疾患

図は <今週の注目される定点把握対象疾患の推移> を参照

全数把握対象疾患では、一類及び二類感染症（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 7 人の届出があった。四類感染症は、レジオネラ症 2 人の届出があった。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4 人、急性脳炎 1 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 1 人、梅毒 8 人の届出があった。梅毒の届出は多く、累計（115 人）は前年の報告数（103 人）を上回った。

定点把握対象疾患では、**RSウイルス感染症**（0.59 1.03：図 1）の定点当たり報告数は、前週と比較し大きく増加し、前年までの同時期より多い。保健所別では、13 保健所管内から報告があり、川口（1.19 3.19）、鴻巣（1.25 2.67）保健所管内で特に増加した。年齢階級別では、1 歳以下で全体の 77.6% を占めている。4 月から病原体サーベイランス対象疾患となり、当所で 44 検体の検査を実施して、A 型が 13 件、B 型が 17 件検出されている。**流行性耳下腺炎**（0.83 1.01：図 2）の定点当たり報告数は、第 33 週（8 月 15 日～21 日）以降同水準に留まり、多い状況が続いている。保健所別では、秩父保健所を除く 15 保健所管内から報告があり、狭山（0.88 2.76）、加須（0.50 1.67）保健所管内で大きく増加した。**咽頭結膜熱**（0.26 0.43：図 3）の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、熊谷（0.44 2.22）保健所管内で大きく増加した。眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎**（図 4）は 37 人（前週 37 人）の報告があり、多い状況が続いている。患者は、1 歳未満及び 60 歳代を除く年齢階級の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**マイコプラズマ肺炎** 3 人、**クラミジア肺炎** 1 人、**感染性胃腸炎（ロタウイルス）** 1 人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7 人（類型 患者 6 人、無症状病原体保有者 1 人、血清型 O157 3 人、O26 3 人、不明 1 人）
四類感染症	レジオネラ症	2 人（病型 肺炎型 2 人）
五類感染症	アメーバ赤痢	1 人（病型 腸管アメーバ症）
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 人（菌種 <i>Enterobacter</i> sp. 1 人、 <i>Klebsiella</i> sp. 2 人、 <i>Serratia</i> sp. 1 人、）
	急性脳炎	1 人（病原体 不明）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人（血清群 G 群）
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 人
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人
	梅毒	8 人（病型 早期顕症 期 3 人、早期顕症 期 2 人、 晩期顕症 1 人、無症状病原体保有者 2 人）

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。
衛生研究所 感染症情報担当者会議（感染症疫学情報担当） TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ（URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）で御覧になれます。

< 今週の注目される定点把握対象疾患の推移 >

図1 RSウイルス感染症

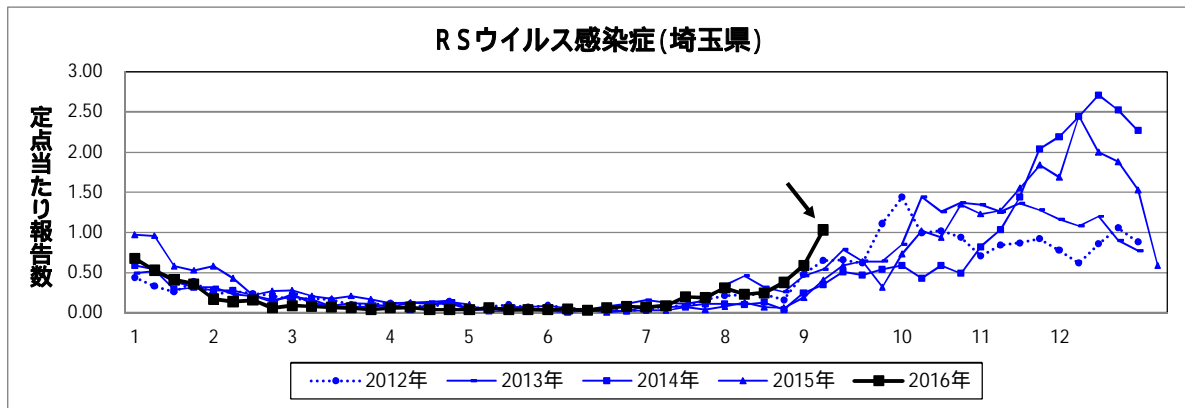


図2 流行性耳下腺炎

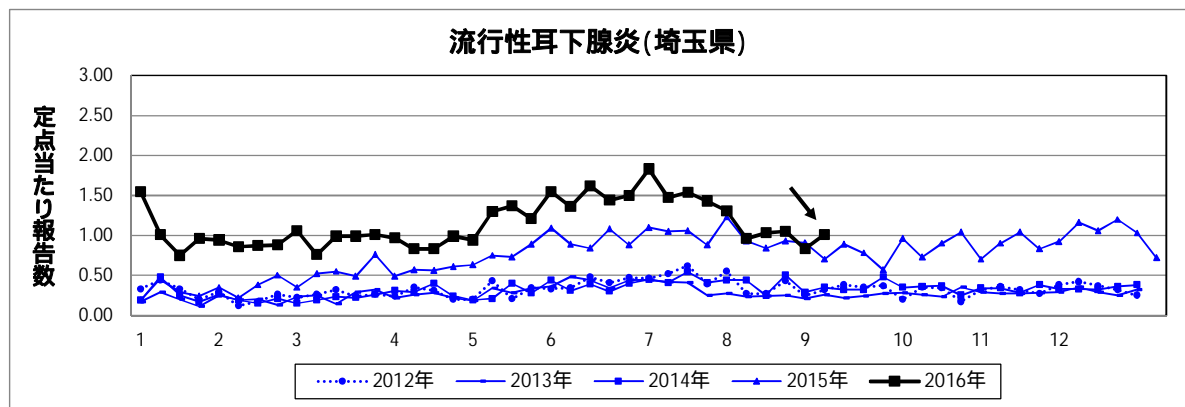


図3 咽頭結膜熱

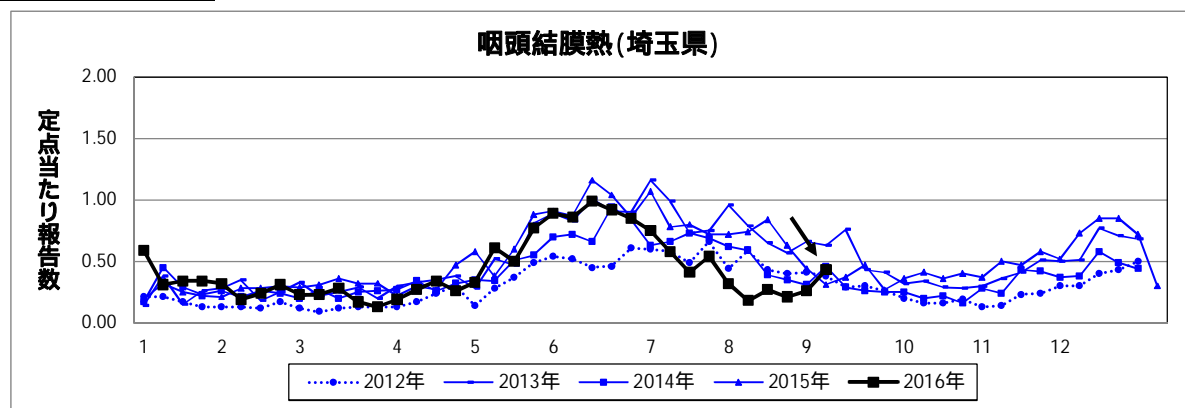
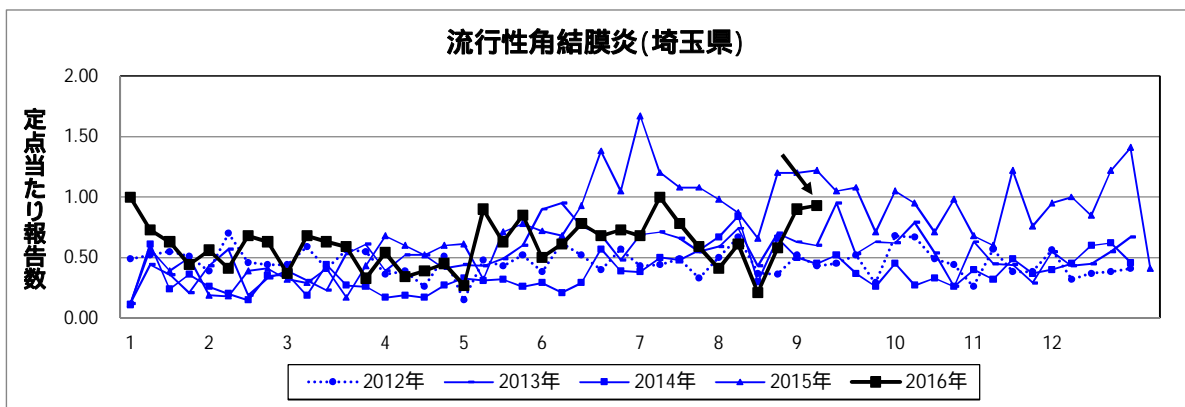


図4 流行性角結膜炎



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第36週)

(2016年9月13日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
一類感染症					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
二類感染症					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
三類感染症					
コレラ			腸チフス		2
細菌性赤痢		8	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	7	116			
四類感染症					
E型肝炎		13	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
A型肝炎		5	ニパウイルス感染症		
エキノкокクス症			日本紅斑熱		
黄熱			日本脳炎		
オウム病			ハンタウイルス肺症候群		
オムスク出血熱			Bウイルス病		
回帰熱			鼻疽		
キャサナル森林病			ブルセラ症		
Q熱			ベネズエラウマ脳炎		
狂犬病			ヘンドラウイルス感染症		
コクシジオイデス症			発しんチフス		
サル痘			ポツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症	2	59
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		9	ロッキー山紅斑熱		
五類感染症					
アメーバ赤痢	1	39	侵襲性肺炎球菌感染症	1	71
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		6	水痘*		7
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	33	先天性風しん症候群		
急性脳炎	1	32	梅毒	8	115
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		6
クロイツフェルト・ヤコブ病		5	破傷風		3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	15	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群		31	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		6
ジアルジア症		1	風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	7	麻しん		5
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		4
指定感染症	該当疾患は無し				

水痘*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	5	1		

累計は診断日で集計

* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

結核届出状況(8月分)

8月の届出数は、患者87人、疑似症患者1人、無症状病原体保有者36人の計124人で、前月の127人、前年同月の124人のいずれと比較しても同水準であった。

表1 診断月別の届出数の推移(2015年8月～2016年8月)

	2015年*					2016年								累計**
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
総計	124	99	111	80	116	129	115	106	102	107	126	127	124	936
年齢階級														
10歳未満	0	1	3	1	7	2	2	1	1	3	5	3	2	19
10歳代	10	0	1	0	1	1	5	0	1	2	2	1	3	15
20歳代	6	10	13	4	8	4	12	8	17	17	13	19	11	101
30歳代	9	9	11	5	16	7	8	9	8	6	8	9	13	68
40歳代	15	11	8	11	6	13	22	15	7	10	13	14	17	111
50歳代	23	11	9	13	13	14	8	7	10	10	14	14	14	91
60歳代	13	21	16	13	16	26	16	16	10	18	18	16	18	138
70歳代	17	23	18	15	27	32	16	25	25	19	20	14	23	174
80歳以上	31	13	32	18	22	30	26	25	23	22	33	37	23	219
性														
男	68	64	73	43	61	72	71	66	59	58	80	75	69	550
女	56	35	38	37	55	57	44	40	43	49	46	52	55	386
類型														
患者	85	57	85	63	83	70	77	73	83	71	88	87	87	636
感染症死亡者の死体	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
感染症死亡疑い者の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
疑似症患者	0	2	0	0	0	2	0	0	2	2	0	2	1	9
無症状病原体保有者	39	39	26	17	33	56	38	33	17	33	37	38	36	288
病型														
肺結核	66	44	63	48	55	43	58	51	62	54	60	73	71	472
肺結核及びその他の結核	3	3	7	4	5	6	7	7	5	4	3	3	2	37
その他の結核	16	11	15	11	23	22	12	15	16	14	26	11	14	130
疑似症患者	0	2	0	0	0	2	0	0	2	2	0	2	1	9
無症状病原体保有者	39	39	26	17	33	56	38	33	17	33	37	38	36	288

*:2015年の届出数は暫定値

** :2016年1月からの累積届出数

8月に診断された124人を病型別にみると、肺結核では10歳未満を除く年齢階級から届出があり、80歳以上が17人、次いで70歳代が16人と多く、無症状病原体保有者では全年齢階級から届出があり、40歳代が最も多かった。

表2 年齢階級別病型別の届出数(2016年8月分)

	病 型					総計
	肺結核	肺結核及びその他の結核	その他の結核	疑似症患者	無症状病原体保有者	
総計	71	2	14	1	36	124
年齢階級						
10歳未満	0	0	0	0	2	2
10歳代	2	0	0	0	1	3
20歳代	6	0	0	0	5	11
30歳代	7	0	0	0	6	13
40歳代	8	0	1	0	8	17
50歳代	4	1	3	1	5	14
60歳代	11	1	3	0	3	18
70歳代	16	0	3	0	4	23
80歳以上	17	0	4	0	2	23

感染症発生動向調査 週情報		報告患者数										保健所別		平成28年9月5日～平成28年9月11日)									
保健所	報告数	週情報										保健所別		平成28年9月5日～平成28年9月11日)									
		インフルエンザ # 1	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎	咽A群溶血性レンサ球菌	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 # 2	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 # 3	感染性胃腸炎	インフルエンザ(入院)				
全	5	165	69	252	702	37	156	25	94	1	249	161	-	37	-	3	1	-					
川	1	51	10	38	129	2	12	4	15	-	11	20	-	9	-	*	*	*					
朝	-	7	6	29	86	6	9	3	2	-	41	11	-	6	-	-	-	-					
鴻	-	54	0.46	2.23	6.62	0.46	0.69	0.23	0.15	-	3.15	0.85	-	2.00	-	-	-	-					
東	-	32	2	21	37	1	14	3	5	-	9	7	-	4	-	*	*	*					
山	1	2	2	21	13	-	6	-	3	-	5	3	-	1	-	-	1	-					
秩	0.13	0.40	0.40	4.20	2.60	-	1.20	-	0.60	-	1.00	0.60	-	1.00	-	1.00	1.00	-					
本	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	*	-	-	-	-					
庄	1	-	-	3	5	1	1	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-					
熊	0.14	-	-	0.75	1.25	0.25	0.25	-	0.50	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-					
加	-	2	20	19	76	2	1	6	5	-	30	7	-	1	-	-	-	-					
春	-	0.22	2.22	2.11	8.44	0.22	0.11	0.67	0.56	-	3.33	0.78	-	0.50	-	-	-	-					
須	1	-	6	-	-	2	18	-	1	-	1	10	-	-	*	*	*	*					
日	0.10	-	1.00	-	-	0.33	3.00	-	0.17	-	0.17	1.67	-	-	*	*	*	*					
部	-	8	7	29	11	2	9	-	5	-	21	1	-	-	*	*	*	*					
手	-	1.33	1.17	4.83	1.83	0.33	1.50	-	0.83	-	3.50	0.17	-	-	*	*	*	*					
幸	1	11	1	21	12	3	12	-	3	-	9	8	-	-	-	-	-	-					
坂	0.07	1.22	0.11	2.33	1.33	0.33	1.33	-	0.33	-	1.00	0.89	-	-	-	-	-	-					
草	-	2	-	1	16	1	1	1	3	1	7	5	-	-	-	-	-	-					
狭	-	0.33	-	0.17	2.67	0.17	0.17	0.17	0.50	0.17	1.17	0.83	-	-	-	-	-	-					
川	-	4	1	7	57	-	16	1	3	-	7	9	-	-	*	*	*	*					
越	-	0.36	0.09	0.64	5.18	-	1.45	0.09	0.27	-	0.64	0.82	-	-	*	*	*	*					
市	-	13	4	15	67	2	12	-	13	-	33	47	-	7	-	-	-	-					
谷	-	0.76	0.24	0.88	3.94	0.12	0.71	-	0.76	-	1.94	2.76	-	1.40	-	2.00	-	-					
さい	-	2	2	9	27	6	7	3	6	-	6	1	-	-	*	*	*	*					
たま	-	0.25	0.25	1.13	3.38	0.75	0.88	0.38	0.75	-	0.75	0.13	-	-	*	*	*	*					
ま	-	10	7	8	14	3	14	-	7	-	18	1	-	-	-	-	-	1					
市	-	1.25	0.88	1.00	1.75	0.38	1.75	-	0.88	-	2.25	0.13	-	-	-	-	-	1.00					
市	-	21	1	29	152	6	24	4	21	-	51	29	-	9	-	-	-	-					
(- : 0.00)	-	0.78	0.04	1.07	5.63	0.22	0.89	0.15	0.78	-	1.89	1.07	-	1.13	-	-	-	-					

1 鳥インフルエンザを除く
2 真菌性を含む
3 オウム病を除く

9月 13日 13:00集計

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第36週 平成28年9月5日～平成28年9月11日)

	年齢別																			
	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	2	-	-
RSウイルス感染症	165	22	37	69	28	5	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	69	-	2	12	2	13	12	5	10	4	2	3	3	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	252	-	1	10	16	21	31	26	32	40	20	18	25	1	11	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	702	9	55	103	54	56	72	68	44	35	26	20	81	27	52	-	-	-	-	-
水痘	37	2	1	2	2	6	6	5	4	6	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	156	2	16	56	27	17	8	11	6	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	25	-	1	3	4	4	3	4	2	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	94	3	32	47	8	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	249	3	23	65	55	47	28	15	5	4	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	161	-	1	6	5	22	21	21	18	22	9	11	21	1	3	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	37	-	-	2	3	1	3	1	2	1	1	2	2	1	3	7	3	4	-	1
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第 34週

(8月22日～8月28日)

平成28年9月14日

インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.48)、鹿児島県(0.28)、茨城県(0.15)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1例と前週と比較して減少した。

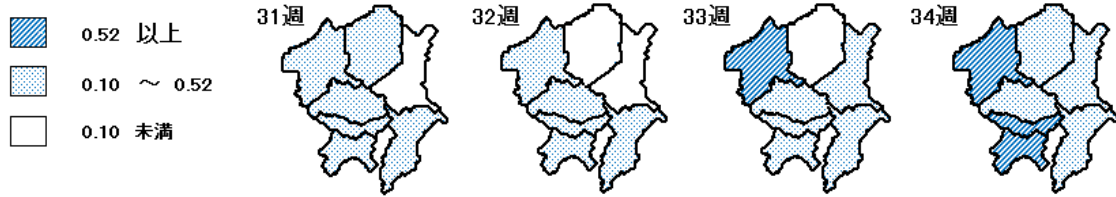
RSウイルス感染症の報告数は1,632例と2週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福井県(2.32)、福岡県(1.16)、沖縄県(1.15)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(3.11)、山形県(2.63)、大分県(2.25)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は大分県(9.31)、徳島県(7.96)、熊本県(6.52)である。水痘の定点当たり報告数は第29週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は佐賀県(0.57)、広島県(0.53)、宮崎県(0.50)である。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(3.00)、宮城県(2.17)、鹿児島県(2.16)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は宮崎県(1.06)、愛媛県(0.54)、栃木県(0.50)、香川県(0.50)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は新潟県(3.57)、富山県(2.66)、熊本県(2.56)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は群馬県(3.38)、岐阜県(1.80)、愛知県(1.71)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は2週連続で減少した。2県から2例報告があり、年齢別では0歳(1例)、5～9歳(1例)であった。

<関東情報>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、東京都(0.67)、群馬県(0.57)、神奈川県(0.54)からの報告が多い。

RSウイルス感染症



		平成28年 34週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	137	46	18	2	-	3	1	15	7
	定点当たり	0.03	0.03	0.15	0.03	-	0.01	0.00	0.04	0.02
RSウイルス感染症	報告数	1,632	465	24	9	33	59	62	171	107
	定点当たり	0.52	0.50	0.32	0.19	0.57	0.38	0.48	0.67	0.54
咽頭結膜熱	報告数	1,133	181	14	3	9	32	19	53	51
	定点当たり	0.36	0.20	0.19	0.06	0.16	0.21	0.15	0.21	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	3,494	1,010	70	20	62	178	201	281	198
	定点当たり	1.12	1.10	0.93	0.42	1.07	1.14	1.55	1.11	0.99
感染性胃腸炎	報告数	10,963	2,739	221	51	173	513	326	845	610
	定点当たり	3.50	2.97	2.95	1.06	2.98	3.29	2.51	3.33	3.05
水痘	報告数	782	234	12	9	16	46	43	63	45
	定点当たり	0.25	0.25	0.16	0.19	0.28	0.29	0.33	0.25	0.23
手足口病	報告数	1,934	725	70	40	13	92	129	242	139
	定点当たり	0.62	0.79	0.93	0.83	0.22	0.59	0.99	0.95	0.70
伝染性紅斑	報告数	521	114	6	24	10	10	13	38	13
	定点当たり	0.17	0.12	0.08	0.50	0.17	0.06	0.10	0.15	0.07
突発性発しん	報告数	1,685	497	29	20	29	86	65	144	124
	定点当たり	0.54	0.54	0.39	0.42	0.50	0.55	0.50	0.57	0.62
百日咳	報告数	59	15	-	-	6	1	5	1	2
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	0.10	0.01	0.04	0.00	0.01
ヘルパンギーナ	報告数	5,833	1,708	100	102	113	284	213	484	412
	定点当たり	1.86	1.85	1.33	2.13	1.95	1.82	1.64	1.91	2.06
流行性耳下腺炎	報告数	3,333	760	39	23	52	164	65	194	223
	定点当たり	1.06	0.83	0.52	0.48	0.90	1.05	0.50	0.76	1.12
急性出血性結膜炎	報告数	6	2	-	-	1	1	-	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	0.07	0.03	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	655	236	33	9	8	23	27	30	106
	定点当たり	0.95	1.14	1.94	0.75	0.57	0.58	0.77	0.77	2.12
細菌性髄膜炎 #2	報告数	8	2	-	-	-	-	1	-	1
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	-	-	0.11	-	0.10
無菌性髄膜炎	報告数	31	4	-	2	-	-	-	2	-
	定点当たり	0.07	0.05	-	0.29	-	-	-	0.08	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	407	87	7	2	27	10	5	29	7
	定点当たり	0.86	1.06	0.54	0.29	3.38	1.00	0.56	1.16	0.70
クラミジア肺炎 #3	報告数	9	1	-	-	-	1	-	-	-
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	-	0.10	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

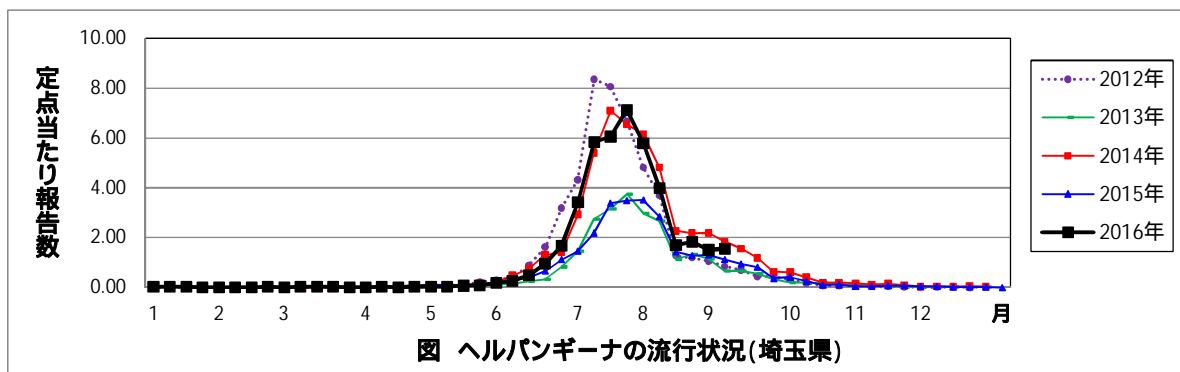
#3 オウム病を除く

(-:0.00)

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは夏季に流行する小児の代表的なウイルス感染症です。今回は、ヘルパンギーナの今夏の患者流行状況と病原体サーベイランスによって確認できたウイルスの検出状況について報告します。

2016年のヘルパンギーナは、2012年、2014年と同等に大きな流行となりました(図)。6月～8月に小児科定点から報告があった患者数は6198人で、1歳の1620人が最も多く、次いで2歳が1269人、3歳953人、4歳780人、5歳482人、1歳未満416人の順でした。



一方、6月～8月に小児科病原体定点で採取され、当所で検査を実施したヘルパンギーナの検体は42検体(6保健所管内)でした。このうちコクサッキーウイルスA群(CA)は26検体(5保健所管内)から検出されました。最も多かった型はCA4で16件(5保健所管内)、次いでCA5が7件、CA10が2件、CA6が1件でした。CA4が検出された患者は1歳以下(68.8%)が多く、CA5の患者の年齢には偏りは認められませんでした(表)。

表 ヘルパンギーナ検体から検出されたコクサッキーウイルスA群の型別数

型	計	1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳以上
CA4	16	3	8	1	2	1	0	1
CA5	7	0	1	2	1	1	1	1
CA6	1	0	0	0	0	0	0	1
CA10	2	0	1	0	1	0	0	0

2016年の県内におけるヘルパンギーナの起因ウイルスは、CA4が主流で、CA5が準じていたと考えられます。CA4は2012年、2014年に比較的多く検出された型でした。全国的にも同様の結果*が得られています。また、CA4は7月に急性脳炎の患者1人からも検出されており、脳炎との関連も否定できません。

県内での流行状況を知るためにも、病原体定点医療機関の先生方の積極的な検体採取をお願いいたします。

* <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/4892-iasrgnatus.html>

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2016年 > 感染症の流行状況 2016年 第36週

感染症発生動向調査 2016年

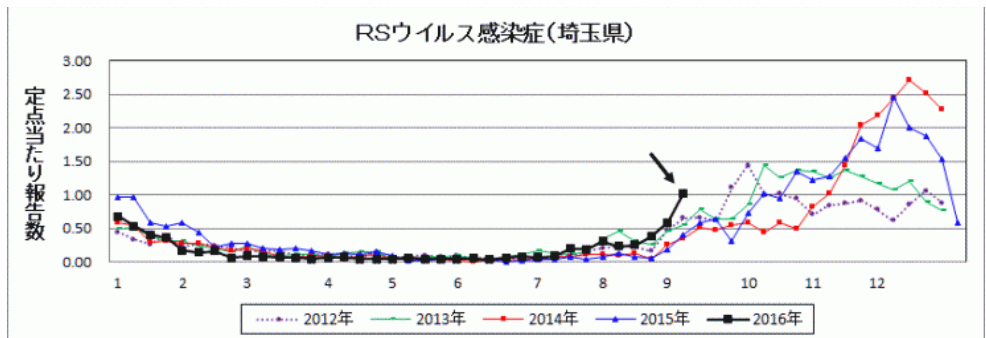
- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第24週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第25週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第26週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第27週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第28週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第29週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第30週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第31週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第32週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第33週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第34週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第35週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第36週](#)

感染症の流行状況 2016年 第36週

2016年第36週（平成28年9月5日～9月11日）の要点 平成28年9月14日

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週より大きく増加し、過去4年の同時期と比較しても多い状況です。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	→	★	伝染性紅斑	→	★
RSウイルス感染症	↑	★★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	↑	★★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★	ヘルパンギーナ	→	★★
感染性胃腸炎	↑	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★★
水痘(みずぼうそう)	→	★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	↑	★★	流行性角結膜炎	→	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン